

2015

【事例集】 神奈川県内の住宅団地・地域における居住支援の取り組み



居住支援の概要・経緯

- ・2005年5月設立。
- ・フランチャイズでデイサービスを展開。全国に普及している。直営+加盟=800事業所(H26.11現在)。神奈川県内にも65箇所の事業所がある。
- ・主に空き家・室等の活用で保険内の小規模デイサービスに、ニーズの高い「お泊り」(夜間ケアサービス)を保険外の低廉な価格で受け入れている。

事業組織の形態

フランチャイズ形式で全国事業展開している。H26年11月に800事業所となる。神奈川県内に65事業所(H27年2月)がある。

本部(開業サポート、研修、日用品の集中購買等のバックアップ)

フランチャイズ事業所(加盟金315万円及びロイヤリティ10万円/月・箇所の支払) 全国800事業所
※夜間ケア付き小規模デイサービス事業の取組み(利用定員10人、スタッフ10人程度)

活動・事業継続のポイント

- 民間の支援ならではの特徴が生かされている
 - ・特別養護老人ホーム待機者への在宅生活支援を包括的に取り組んでいる。
- 既存の活動団体や事業体と連携・ネットワークしている
 - ・フランチャイズ制に地域の事業所と連携している。
- 参加・協力しやすい事業計画
 - ・意欲のある人材が、活動したい地域で起業できるような事業計画になっている。
- 補助や給付を伴う事業と有償事業等を組み合わせて実施する
 - ・給付を伴う事業(デイサービス)と自費(有償)事業(預かり時間を拡大する)を組み合わせることにより、給付事業の効果を高め、ユーザの需要にも応えることができ、活動資金も生まれている

活動や事業の特徴

- ・高齢者及び介護家族のニーズに応えられず、特別養護老人ホームの入所待機者が増加する現状を改善する受け皿づくりが必要と考えた創業者の発意によりスタートし、質の高い介護と誰もが利用できる事業スタイルを模索しつつ事業展開してきたフランチャイズチェーンによる社会起業家集団である。
- ユーザー視点の事業計画が継続の要であることを基本に検討した事業形態で、10年弱で全国800事業所に拡大している。
- ・資本が豊かになくともフランチャイズチェーンのオーナーになることのできる事業形態を普及することで、平均年齢35歳のスタッフが集まり、低廉な価格帯のサービス提供と全国展開が出来ている。
- ・特徴は、空き民家の活用、必要な時に利用できる「夜間ケア(お泊り)サービス」、認知症の独居高齢者も利用できる柔軟なデイサービス事業、制度内外サービスの組み合わせによる混合介護、誰もがフランチャイズチェーンのオーナーになれる事業計画であること。
- ・空き家が目立ちつつある戸建て・集合住宅地域での高齢化は避けられないが、介護サービスを提供する小さな拠点が点在することは、介護のために転居する必要のない地域への再生の一つの選択肢と考えられる。

居住支援の概要・経緯

- ・2006年10月NPO法人設立。
- ・NPO法人さくらザウルスが「横浜市親と子のつどいの広場事業」を受託して親と子のつどいの広場（「蒔田ひろば」「六ツ川ひろば」）を運営。
- ・ひろばは、乳幼児親子が自由に過ごせる場所。買い物やお出かけの際の休憩所としてもご利用できる。
- ・南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」運営。

活動や事業の特徴

- ・核家族、都市生活における個人、お互いのあり方の関係構築を支援する事業（活動）。
- ・孤立、混迷から孤独感に展開しがちな、出産、子育て、家族、家庭、地域社会がテーマである。
- ・疎外感、大変さ、吐き出す、ガス抜き、肯定感という気遣いを要する煮詰まる状況を、ゆるさ、のんびり、正解は無いといった姿勢で傾聴し寄り添い相互に支え合う数々の工夫が事業化されている。
- ・どんな情報が必要かを一番わかっているのは支援を受ける側。当事者が一番知っている。当事者の力を活かすことが広場の力という考え方で活動が展開されている。
- ・「はじめ利用者だった人が親子スタッフとしてボランティアになっている」というように、都市における「新しいお互い様」の創造でもある。



*「六ツ川広場」の様子。NPO 法人さくらザウルスのサイト (<http://www.sakurazaurusu.jp/publics/index/66/>) による

活動・事業継続のポイント

○現場の声、地域声を聞く
子育て支援の現場には、理論もマニュアルもない。実践の積み重ねや先輩からの学びあいの中で、何が大事なのか、スタッフとしてどうあるべきか話し合っている。

○新しい取り組みに挑戦する
区づくり事業から始まったが、活動継続を見据えてNPO法人化し、横浜市の親と子の集いの広場事業、ファミリーサポート事業、拠点事業へと広げていった。

○活動の原点にふれ続けている
利用者が疎外感を持たないように接し方を工夫し、常に話し合っている。正解はないが、スタッフには今までにない高い専門性が必要とされている。

○人材やノウハウが循環している（支援を受けた人が提供者になる）
はじめ利用者だった人が親子スタッフとしてボランティアになっている。人手が足りないと言っていると戻ってくる人が100人に1人ぐらいいる。何を支援してもらいたいのか、どんな情報が必要かは当事者が一番知っている。当事者の力を活かすことが広場に力になる。

○地域へのこだわりがある
活動の舞台になっている「地域」にこだわり、地域の声に反応した活動が展開されている。

○公的な支援では解決できない部分を担っている
事業内容は居場所を中心としながら、情報、相談、学びの4つを実施。サービスの提供というより、利用者同士で話ができればよい。それぞれの人の自立の支援、支えあうこと、上手に頼れることが自立。それをサポートしている。

○ボランティアと事業の住み分け
担い手やスタッフの生活スタイルに合わせてボランティアとスタッフの住み分けが行われている。ボランティアスタッフは交通費くらいの支給だが、子連れでの参加可とするなどゆるい参加の方法をとっている。担い手の確保と働きやすい環境が両立できるようになっている。ゆるい働き方を用意することによりコストの低減とともに、スタッフになりうる人材を確保しておくことにも繋がっている。

○細かくかせぐ
事業は多くを補助金で賄うが、チャリティショップ、プログラム参加費、地元企業の寄付、子育てタクシーへの協力費、フリーマーケット、カンパなど細かく稼いでいる。

○アンケート調査による情報収集・発信
要望、ここに来たきっかけ、やりたいプログラムなどをアンケートで聞いている。

居住支援の概要・経緯

- ・賃貸住宅、シェア住宅などを運営管理している。シングルマザー向けの住宅もそのひとつ。
- ・シングルマザーを対象にした子育て応援型のシェアハウス「ペアレンティングホーム高津」を2012年3月にオープンし運営している。



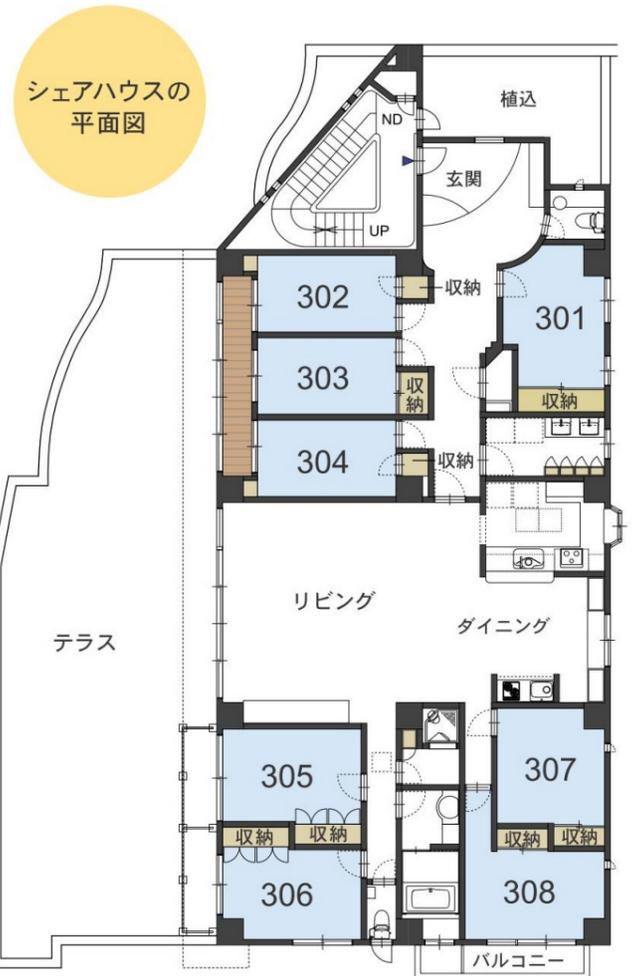
*ペアレンティングホーム高津のサイト
(http://stone-s.co.jp/sharehouse/takatsu_top) による

活動や事業の特徴

- ・単に入居対象層を特化しているのではなく、シングルマザーの特性を分析・理解し（勉強会に参加する、各種調査・情報の分析等）、コンセプト「仕事と子育てを楽しく両立する」を明確にしている。
- ・賃貸住宅の管理業務を生業とする事業者であり、必要なサービス・居住支援は、提供している組織・団体等と連携した取り組みにしている。
- ・さらに、サービスの体系を固定的にとらえず、短期契約制の導入、コミュニティを維持していくための見守り、シングルマザーへの対応、「小1のカベ」への支援策の検討等、常に入居者の満足度を高める柔軟な運営をしていることが、質を維持した事業継続につながっていると考えられる。
- ・前記の特徴が、居住者が明るい（見学者の評判）につながり、シェアは小さい事業でも強いニーズに支えられる事業となっている。セーフティネット的に提供される住宅が制度の枠組み・制約もあり、ハードの提供のみであることは対照的な取り組みである。

活動・事業継続のポイント

- 現場の声、地域声を聞く
 - ・社内の子育て中の女性スタッフの悩みや、シェアハウスの運営をしている中から生まれてきたアイデアである。
 - ・仕事と子育ての両立を掲げたシングルマザー向けのシェアハウスで、ニッチな層ではあるが、収入が不安定などの理由で民間賃貸住宅に容易に入居できないことも知っていたので、シングルマザーが「自分のための家」と思ってくれるのではないかと考えた。
- 既存の活動団体や事業者と連携・ネットワークしている
 - ・保育園、子供のケアワーカー、共用部の清掃など提供しているサービスを担う事業者との連携がある。
 - ・またあまり使われていないが、シングルマザー専用の就職支援起業や、NPOシングルマザー支援協会等との連携もある。
- 民間の支援ならではの特徴が生かされている
 - ・支援効果が発揮できるように、自立意欲の高い対象を選定し支援が行われている。結果的に民間ならではの特徴のある支援になっている。



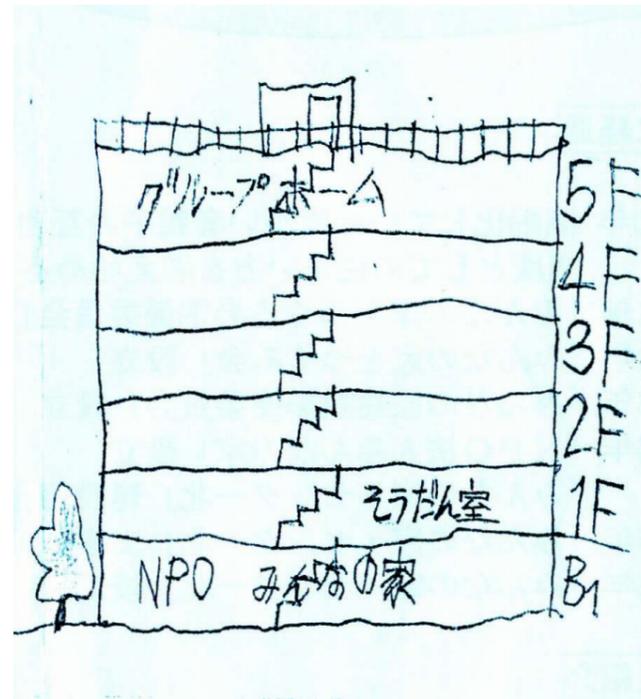
*ペアレンティングホーム高津のサイト
(http://stone-s.co.jp/sharehouse/takatsu_top) による



*ペアレンティングホーム高津のサイト。(同上)
シェア住居の外観。1Fはマッサージ店、2Fは保育園・クリニック、3Fがシェア住居。

居住支援の概要・経緯

- ・2006年3月から活動
- ・福祉的共生住宅（障害者のグループホーム、障害者のいる世帯の住居を含めた共同の住まい）をコーポラティブ方式で建設し、ここを拠点に、障害者地域生活交流支援事業などを展開している。



活動・事業継続のポイント

- 事業のコンセプトが明確である
障害者とその家族がどのように暮らしていくか、子供のこと、親が高齢になった時の生活のイメージ、地域貢献などについて、長期的な視点で考えられた事業イメージが実現されている。
- アンテナショップや一般向けの催し、セミナーによる広報
地域の活動に参加したり、一般向けのセミナーの開催などに地域との連携を深める工夫がみられる。
- 居住機能と活動拠点を確保する考え方が戦略的・独創的である
コーポラティブ方式の共同住宅を建設し住宅と介護や交流の場、活動拠点が自律的・一体的に機能する仕組みが実現されている。空き家や空き店舗を活用する居住支援活動の事例が多い中で、独創的な解答方法である。

活動や事業の特徴

- ・「障害者も高齢者も住みなれた地域であたりまえの尊厳のある生活を」という目標が、建物、人、仕組みの面から様々な工夫が積み重ねられ実現されている。
- ・小さい単位で少しずつ、広がる、つながることをイメージしながら、完成度が高く、安定して稼働する単位＝複合的共生住宅が作られた。
- ・駅前のバスターミナルに面した立地は、スタッフの交通利便、障害者がまちなかで暮らすこと、福祉共生住宅の地域社会へのプレゼンスを考えると重要な選択だった。
- ・建物完成から10年が経過し、初期メンバー5戸のうち2戸が入れ替わったが、安定した活動が続いている。
- ・交流事業のメニューは当初から大きな変化はないが、地域や一般の人に開かれた交流メニューも生まれている。



居住支援の概要・経緯

- ・前々施設長が訓練会に関わる中で、養護学校高等部卒業後の子供達に行き場がない現状を知り、「社会に出ていく子供たちが生き生きと働ける場をつくろう」と、保護者と一緒に立ち上げたのが前身の地域作業所で今年21年目。2007（平成19）年に社会福祉法人化した。
- ・当初は受注作業中心であったが、青空の下での手応えのある活動が利用者の行動障害等の改善にも役立つのではないかと考え、細々と農作業等に取り組んできたのを今日まで膨らませてきた。
- ・「自分の得意なことを活かし、地域で野菜づくりや調理の仕事をして暮らす。障害者が自然と地域に溶け込んでいける街づくり」を目指している。



活動や事業の特徴

- ・障害者の働く場づくりと農地の保全に貢献すると同時に、地域住民との交流の中で障害者が地域の一員として生きることのできる場づくりを目指し、職員と保護者で資産ゼロからスタートした事業である。
- ・障害者総合支援法に基づく給付事業をベースに（比較的重度の知的障害者の「生活介護事業」）、独自事業として農作業及び生産物を使ったお弁当・惣菜の調理・販売等の活動に取り組んでいる。
- ・障害者40名、4月からは42名の働く場所を作り上げたが、活動当初は農地を借りることも大変で、山の斜面を開墾してシイタケ栽培から始めた。この時点で20aに過ぎなかった農地は、活動実績が評価され、地権者8名から借地できるようになり21年目を迎えた現在1.28haとなった。
点在していた農地も地域にまとまり、寄付による所有農地も出来て、耕作してほしいという候補地が多くなった。商店街の空き店舗にアンテナショップ実現のめどもつき地域との接点がまた一つ出来る。
- ・活動当初の農地探しは、地域の理解者による紹介、行政＝農政事務所の仲介が大きかったが、覆うもののない青空のもと、近隣の農家と顔の見える関係で農作業を20年間続けてきたこと、畑での収穫祭等の地域交流の機会を作ってきたことが、

地域のオーナーに理解され、評価されてきたことが大きい。

- ・障害者が地域で働いて暮らす、当たり前のことを実現するための取組みの試行錯誤は、結果的に盤石な応援団・支援者を形成してきたと考えられる。

表- 活動の概要 平成26年度

| | | 内容 | 頻度・量 | 場所・地域 | 備考 |
|----------|-------|--|--------------|--------------------|--------------------|
| 生活介護事業 | 農作業 | 稲作と露地野菜（約30種類）の栽培。 | 週5日 9～16時 | 青葉区鴨志田町 | |
| | 調理班 | 農事業班が生産した野菜や米を使った、利用者・職員のための昼食調理。 | 50食/日 程度 | 第2グリーン 青葉区すみよし台 | ※1) 2015年4月 廃止。 |
| | おにぎり班 | カレー、おにぎり（20種類位ある）、お惣菜を調理して外部に販売。（※1） | 2～3日/週 | 青葉区すみよし台 空き店舗活用 | |
| 共同生活援助事業 | | 川和ハイツ、川和ハイツ第2～4の計4棟のグループホームを運営。 22名が居住。 | | 都筑区川和町 | 日中は、グリーンで働いている。 |

※1 利用者（通所者40名。来年から42名の予定。平均年齢32.2歳）の栄養管理、食事制限している方もいて難しくなる。開設当初からの利用者は40歳になり、すべて立ち仕事のため、週5日働けなくなってきている。60歳まで働ける場所の提供が義務でもあるので、5年後を見据えて調理班は廃止とし、室内作業班（ステンシル、織物、染織等のクラフト的なこと。）を新たに設ける。

※2 スタッフの勤務時間は、8：30～17：30。



*社会福祉法人グリーン



*おにぎり畑 外観

活動・事業継続のポイント

○人材やノウハウが循環している（支援を受けた人が提供者になる）
利用者の親がスタッフになる例がある。

○公的な支援では解決できない部分を担っている
障害者が地域の一員として生きていくための総合的なサポートを提供している。

○補助や給付を伴う事業と有償事業等を組み合わせて実施する
公給付を伴う事業（障害者の「生活介護事業」）と手ごたえのある自主事業（生産物を使ったお弁当・惣菜の調理・販売等の活動）を組み合わせることにより、活動資金が生まれている。

○アンテナショップや一般向けの催し、セミナーによる広報
地域の活動に参加したり、一般向けのセミナーの開催などに地域との連携を深める工夫がみられる。

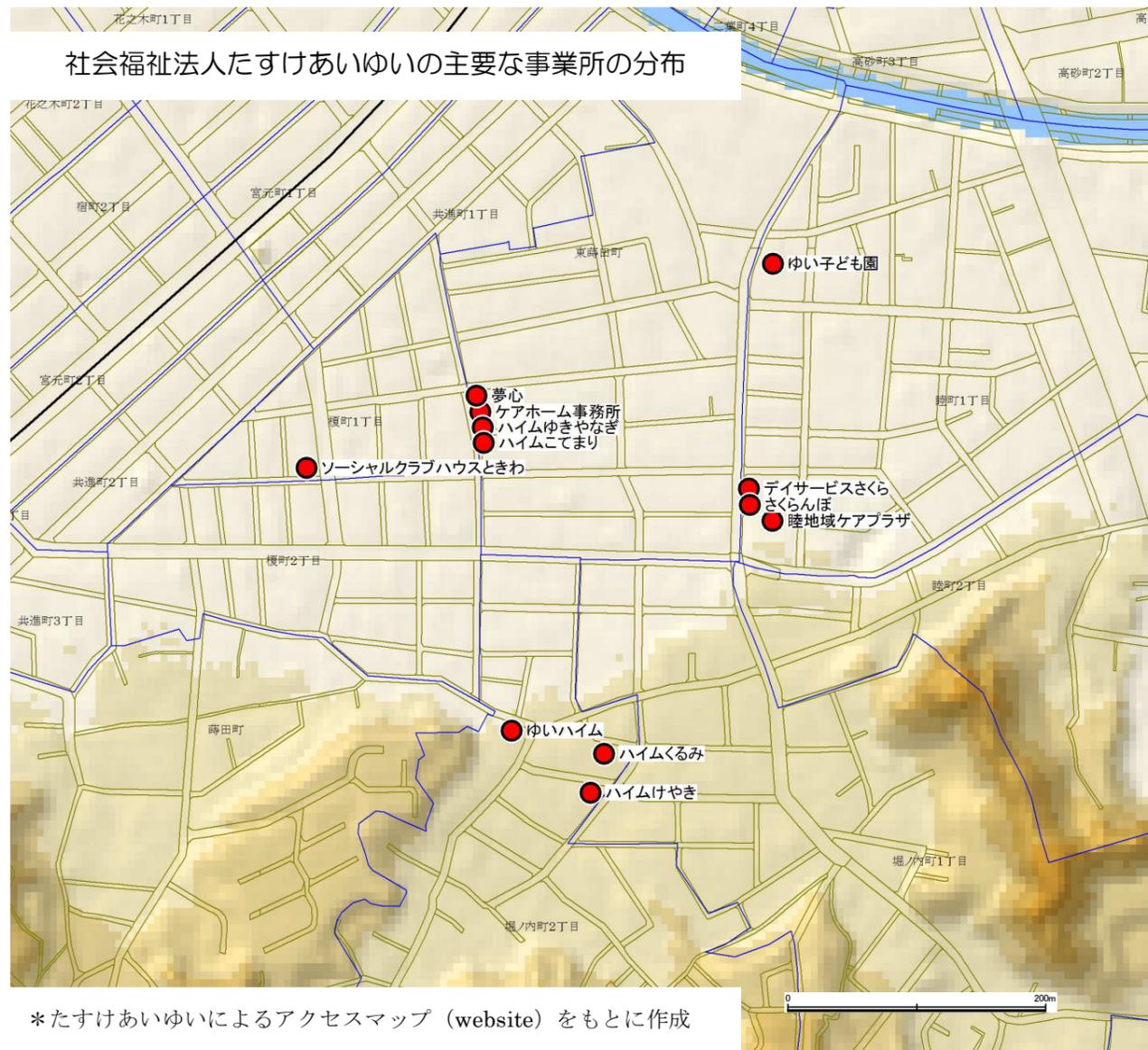
○空き家や空き店舗の活用
空き店舗で惣菜調理事業を実施している。さらに商店街の空き店舗を活用したアンテナショップの開設を計画している。

居住支援の概要・経緯

- ・たすけあいグループ結として、1991年に設立された市民グループから始まり、現在では介護・看護・子育て支援等の総合的な福祉サービスを展開している。
- ・高齢化、核家族化が進む社会状況の中で、誰もが住み慣れた街で、安心して心豊かに人としての暮らしが続けられるよう、地域の人々がお互いにたすけあい、支え合っていくことができる街づくりを目指している。
- ・知的障害者ホームヘルプ事業/身体障害者ホームヘルプ事業/児童ホームヘルプ事業/児童デイサービス事業等を実施している。

活動や事業の特徴

- ・1990年に同じ地域に住む9名の女性が、地域に住む高齢者・障がい者のために自分たちの出来る事をしたいという思いから活動を開始して25年が経過した。この団体の事業継続・展開の第1は、カリスマ的リーダーの存在。
- ・地域に住んでいるという信頼感と当事者性がその基底にある。
- ・住民からの声に敏感に反応し、リスクがありながらも次々に新しい事業に向かっていった。
- ・また、その経営姿勢は、外に開かれており、想いのある専門家の声を聴き、人材発掘・人脈つくりにつなげていった。



社会福祉法人たすけあいゆいの主要な事業所の分布

*たすけあいゆいによるアクセスマップ (website) をもとに作成

活動・事業継続のポイント

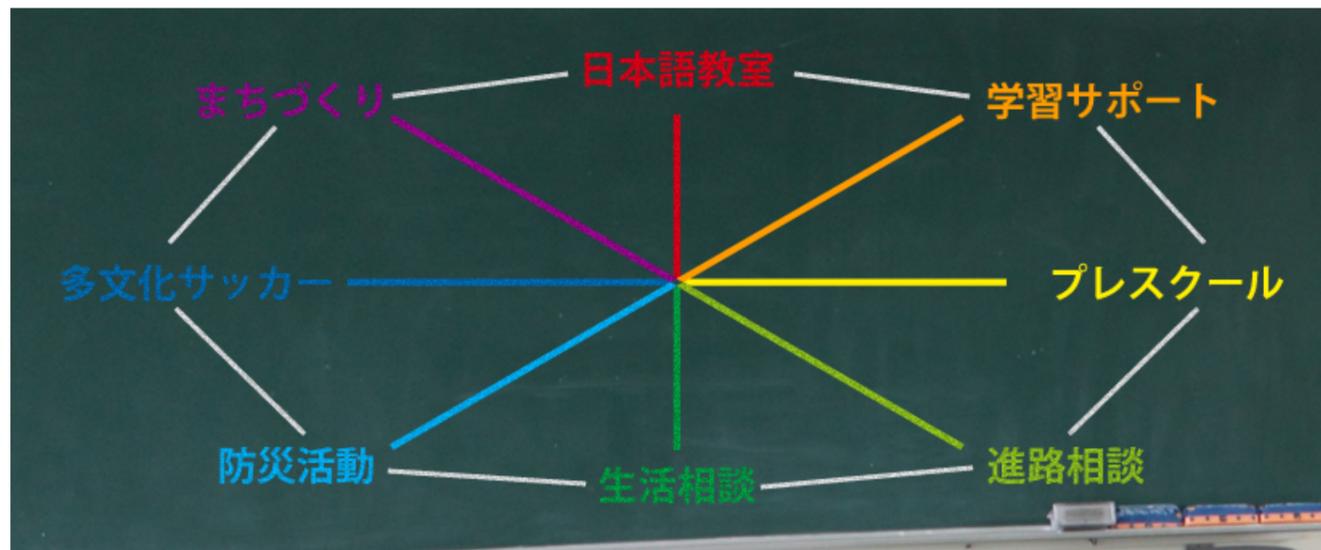
- 新しい取り組みに挑戦する
たすけあいグループとしてはじまり、地域の声に応える形で高齢者、障害者、子育てと対象や支援内容が追加されてきた。20近い事業所が南区内で展開している。
- 地域へのこだわりがある
活動の舞台になっている「地域」にこだわり、地域の声に反応した活動が展開されている。
地域との連携・協力は強い。理事・評議員の多くの地域の人が参画している。
- 人材やノウハウが循環している（支援を受けた人が提供者になる）担い手の確保
事業の拡大に伴い、その都度確保。ボランティアも多いが、専門性のあるサービスを目指しており、担い手の多くは有資格者である。中核的なスタッフの多くは「たたき上げ」。
支援した人がスタッフとして戻って来る例もある。
「女性の力を労働市場に載せていく」ことに石喜的に取り組んできている。
- 空き家、空き店舗の活用
空いていた共同住宅（12室）を障害者のグループホームとして活用している。



*写真は、多文化まちづくり工房のサイト (<http://www.tmkobo.com/index.html>) による

居住支援の概要・経緯

- ・1994年に県営いちょう団地で活動スタート。1998年に一度解散後、2000年10月に多文化まちづくり工房として再スタート。
- ・多様な文化背景を持った人達が個性を出し合う楽しいまちづくりが目的。
- ・いちょう団地の世帯数は約3,600世帯。内外国籍世帯約20%。国籍は10ヶ国前後。
- ・日本語学習、学習サポート、プレスクール、進路相談、生活相談、防災活動・多文化サッカーなどを実施している。



*写真は、多文化まちづくり工房のサイト (<http://www.tmkobo.com/index.html>) による

活動や事業の特徴

- ・任意の組織という活動形態で財団法人神奈川国際交流財団の支援を受け続けているのが特徴。
- ・「実際の方は交通の便が悪いところにいる。本当に暮らしを支えることを考えるならば暮らしのある場所にこそつくるべきだ」、「日本人の町に外国人が侵入してきたわけではなく一つの町にいろんな人がいるというイメージでいきたい」という活動の方針や考え方が明確である。

活動・事業継続のポイント

- 人材やノウハウが循環している（支援を受けた人が提供者になる）
教え教えられる関係での語学講座が運営されており、支援された経験を持つ人が教える方になる場合がある。
- 地域へのこだわりがある
「本当に暮らしを支えることを考えるならば暮らしのある場所にこそ国際交流の機会をつくるべきだ」という視点で支援事業が展開されている。
- 既存の活動団体や事業体と連携・ネットワークしている
いちょう小学校長の理解と泉区役所の積極的な対応により学校の図書室の一室を「国際交流室」と名付けて使えるようになった。
- 公的な支援では解決できない部分を担っている
日本語学習ばかりでなく、在留資格、居住場所の契約、保険など多岐にわたる生活相談にのることもある。



*団地の様子。左側の棟の1階部分に集会室がある。

居住支援の概要・経緯

- 20 年程前、県営横内団地の自治会組織に国連部を創設し、国連部長、自治会長、民生委員、主任児童委員等が連携した多文化共生のまちづくりに取り組んでいる。
- 市社会福祉協議会が中心となり、外国籍県民支援グループやボランティア、学識者等が支援を行ってきている。
- 現在約 1,275 世帯のうち約 14% (約 180 世帯) が外国籍の世帯。各国の代表者と 3 ヶ月に 1 回定期的に会合を持っている。国連部のリーダーは 5 ヶ国。
- 団地居住者の高齢化がすすんでおり、移動支援などが必要になってきている。
- 団地集会所で、「子ども教室」「日本語教室」「生活相談」を実施し具体的な生活支援につながっている

活動や事業の特徴

- 外国人が多く居住する団地内で、当初は、生活習慣の違いから生まれたトラブルを解消する形で、共生へ向けた活動が始まった。
- 共生の取り組みが始まってから 20 年ほど経過する中で、「外国人」ではなくて 20 年もすれば外国籍の県民、市民であろうという考え方が生まれ、団地の中で一緒に暮らしていくという方向がでてきている。外国人リーダーとの定期的な意見交換や日本語教室など従来の活動を継続しつつ、コミュニケーションを充実する取り組みが続いている。
- 団地の自治会組織であり、自治会費や、資源回収を基本的な財源にしながら活動が続けられている。実現可能な取り組みを着実に進めるという方向に向かいつつある。そのなかで、「外国籍」の居住者も、一緒になって高齢者の階段移動などの生活支援に参加してもらえるような努力が続いている。

活動・事業継続のポイント

○人材やノウハウが循環している (支援を受けた人が提供者になる)
自治会による日本語教室と、「外国籍の日本人」による団地内の高齢者の移動支援を組み合わせようとしている。

○地域へのこだわりがある
高齢化がすすむ開発住宅地で、自分たちのまちを住民自らの手で作ってほしいという視点で多様な支援活動が展開されている。

○既存の活動団体や事業体と連携・ネットワークしている
「外国籍の日本人」が多く居住する団地で、日本語教室の運営を大学と連携して行っている。

| 集会所利用団体名 | |
|---------------------|-----------------|
| 横内プロジェクト (日本語学級) | 踊りの会・寿会 |
| 体育振興会 | フォークダンス つるばら |
| 社会福祉協議会 | 平塚バトクラブ |
| ゴミ減量化婦人の会 | リズムダンス |
| 美化推進委員会 | 詩吟の会 |
| 緑化推進委員会 | 社交クエア・ダンス |
| 横内団地朋友会 | 社交フェニックス |
| 青少年指導員 | イリマ・フラダンス |
| 横内小学校PTA | 卓球部 |
| 横内中学校PTA | |
| 子供育成会 | 彩の会 |
| 横内保育園 | |
| 横内こどもサポート ネットワーク | |

*団地の集会所を利用している活動



*団地に隣接した空き店舗を活用して、平成 26 年 2 月、平塚市が「横内福祉村」が開設し「ふれあいサロン」が開かれるようになった。連合自治会の活動とも連携した活用が検討されている。

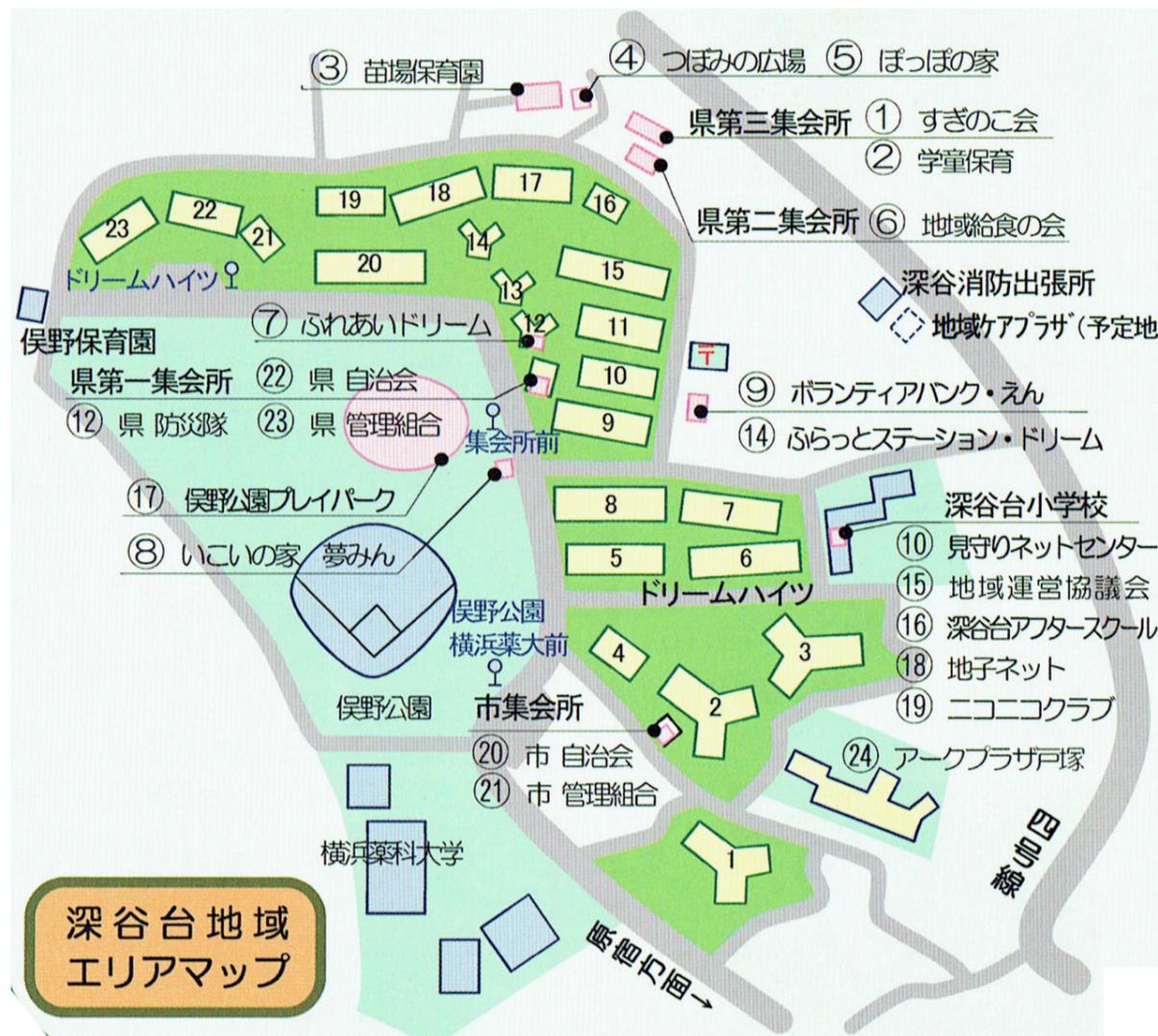
居住支援の概要・経緯

- ・2007年10月ドリームハイツ地域運営協議会を結成。2011年6月深谷地域運営協議会として再スタートした。
- ・深谷台小学校区及びその周辺地域の住民相互の助け合いや連携を強化して、より住みよいまちづくりを目指す。
- ・県、市のドリームハイツ自治会、アークプラザ自治会と深谷小学校・PTA及び7市民団体計12団体で構成されている。



活動や事業の特徴

- ・築40年の集合住宅をベースに高齢化・1人暮らし化が進む地域において、常により住みやすいまちづくりを志してきた市民の成熟度の高さがその基底にある。
- ・自分たちのまちは、住民自らが創っていくという主体性と多くの活動団体をゆるやかに結びつけるネットワーク力、そして内にこもらず、外に広げられたアンテナとその感度の良さが、事業継続・展開のポイントである。



活動・事業継続のポイント

- 活動が組織の外や地域の外に向かって開かれている
組織内にこもらず、外に広げられたアンテナとその感度の良さによって、活動を客観的な視点で評価することができ散る。
- 地域へのこだわりがある
高齢化がすすむ開発住宅地で、自分たちのまちを住民自らの手で作っていきという視点で多様な支援活動が展開されている。
- 新しい組織を自ら次々に生み出している
陸の孤島と呼ばれたドリームハイツとその周辺では、住民の力によって様々な活動や拠点が次々に生み出されてきた。40年を経て子育て支援、高齢者・障害者支援、まちづくり等の約20の団体が緩やかなネットワークで結ばれ、総合的な力を発揮するようになってきている。
- 「アンケート調査による情報収集・発信」
アンケート調査が有効に活用されている。
- 空き家・空き店舗の活用
事務局を小学校の空き教室内に確保している。

*パンフレット「わたしたちのまち 深谷台地域運営協議会」平成26年9月による

居住支援の概要・経緯

- 2004年株式会社イータウン設立。2005年港南台タウンカフェ開設。
- 「タウンカフェ」を舞台に、横浜港南台商店会、株式会社イータウン、まちづくりフォーラム港南の3者が協働で様々な事業・活動を行っている。
- 地域の自治会町内会はじめ、NPO・ボランティア団体などと連携して、地域交流や地域活動を推進。
- 学生や主婦、シニア、ビジネスマンなど多くの市民が参加している。



*港南台タウンカフェ通信「ふーのん」創刊号による。



*2010年10月に送還された港南台タウンカフェ通信「ふーのん」。まちの風通しの良さ『風』と穏やかな人と人のつながり「穏」からつけられた。このほかにも、港南台まちづくりプロジェクト「leaf letter」などが刊行されている。

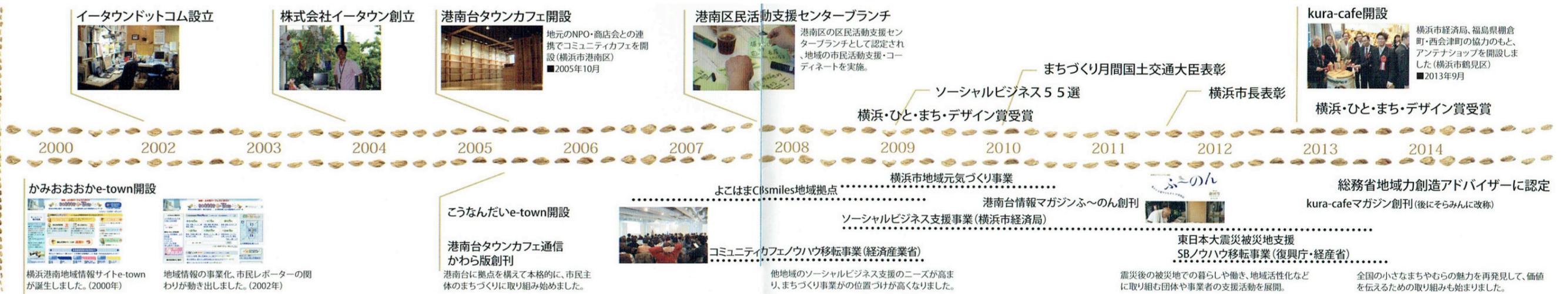
活動・事業継続のポイント

- 地域へのこだわりがある
活動の舞台になっている「地域」にこだわり、地域の声に反応した活動が展開されている。
- パンフレットや情報誌の発行による情報発信
見やすく質的な中身の濃いパンフや情報誌が発行されている。
- 空き家。空き店舗の活用
活動の拠点である港南台タウンカフェは、空き店舗を活用して整備された。

活動や事業の特徴

- 活動を開始して10年となるが、港南台という地域において、商店会会員、市民活動家、大学教授、サポーター等性格の違う人々を集めていった。
- 人の集め方と集まった人たちとの距離の取り方が絶妙である。そしてそのための「情報の受発信」につとめ、この地域に住む人たちと同じ目線のまちづくりに取り組んでいる。

イータウンのあゆみ



*パンフレット「cafeから始まるおもしろまちづくり」株式会社イータウンによる

居住支援の概要・経緯

- ・市民活動を支援する団体として2001年6月に設立。
- ・コミュニティ施設「遊友ひろば」の運営
- ・2001年4月、食を通じた出会いの場コミュニティカフェ「メサ・グランデ」を空き店舗を活用して開設
- ・市民活動に関する相談・支援、地域の課題についての調査・研究、情報の収集と発信等を行っている。



*メサグランデ内部



*メサグランデの店先で行われている、川崎野菜の直販



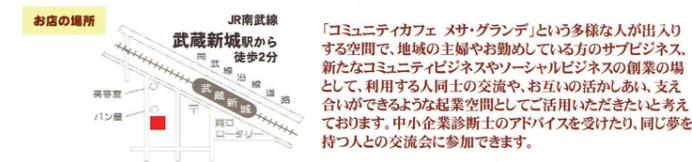
*2015年NPO法人ぐらす・かわさきが発行したガイドブック

活動や事業の特徴

- ・単なる政策提案の役割を担う中間支援組織にとどまらず、行政や商店街・大学等と協働でコミュニティビジネスを推進したり、コミュニティカフェ等の立ち上げ支援をしている。
- ・地域やNPO等の地域課題や社会課題の解決をはかる具体的な取り組みと関わりながら、時には先導役を担いながら、あるいは地域等によるカフェ立ち上げを支援しながら、現場や実務と深く関わり中間支援の役割を担っている点が最大の特色である。



レンタルスペースは中期間でのセミナーや学習会などに最適です。個人レッスンなども、貸いだら盛りだくさんです。
レンタルキッチンはご自宅で普段、料理教室をされている方や、テストキッチンとしてメニュー開発などをしていないプロの方、試食会などに最適です。また、来店者が料理教室の様様を見て、新たな顧客になる可能性があります。
 ■基本利用日・時間：月曜～金曜 9時～11時/14時半～17時半
 ■設備利用料：
 ①キッチン&カウンター席（奥半分）
 1時間/2,000円（光熱費・調理器具等使用料込）
 ②テーブル席（奥側から1テーブルまたは2テーブル）
 1テーブル・1時間/500円（テーブルのみをご利用の場合は、全席1ドリンク以上、ご注文をお願いいたします。）
 ■キッチンはオープンキッチンで一般的な調理器具・食器は揃っています。現場確認の上、他に必要なものはお持ち込み可能です。プロジェクター・スクリーンの貸出もできます。
インキュベート・スペースメンバーご登録いただきたい方
 鍵付きロッカー（右写真）の貸し出しや、郵便物受け取り、FAX受取のサービスも承ります。また、特典として、レンタルスペース利用時に、レンタル料を50%引き、プロジェクター・スクリーン・ノートPC・ホワイトボードの館内利用を無料、ドリンク1杯サービスとさせていただきます。電源やWi-Fi利用もOKです。
登録料：1,000円（初回のみ）
ご利用料：8,000円/1か月
 （ご利用は1か月単位です）



お問い合わせ・お申込み：メサ・グランデ（NPO法人ぐらす・かわさき）
 電話：044-872-9795 メール：tachi@grassk.org
 HP：http://mesa-grande.blogspot.com
 （川崎市中原区新城5-2-13プリマSK武蔵新城1F）

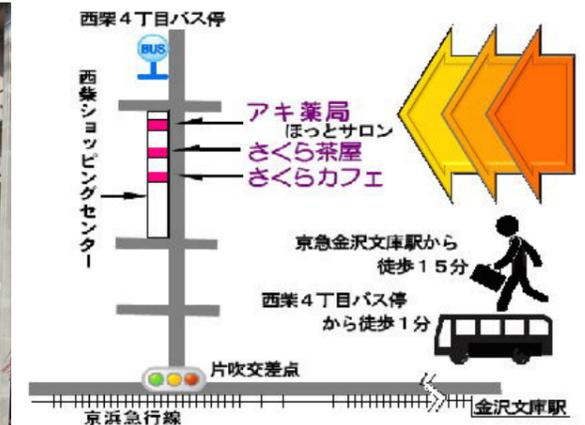
*起業相談のチラシ（NPO 法人ぐらす・かわさき）

活動・事業継続のポイント

- 人材やノウハウが循環している（支援を受けた人が提供者になる）
 3つの拠点運営をしながら中間支援的な取り組みをしていくノウハウや苦労は多くストックしている。
- 既存の活動団体や事業体と連携・ネットワークしている
 川崎市内の市民活動団体・市内の大学・行政等との幅広いネットワークを活用して、西三田団地内の「みた・まちもりカフェ」の立ち上げ支援、暮らしや住まいの支援、市民ファンドの立ち上げなどを実施している
- 公的な支援では解決できない部分を担っている
 中間支援組織としての機能も有しており、コミュニティビジネスやコミュニティカフェ、地産地消などの先導モデルの推進役を果たしている
- パンフレットや情報誌の発行による情報発信
 見やすく質的な中身の濃いパンフや情報誌が発行されている。
- 空き家、空き店舗の活用
 メサグランデは空き店舗を活用して開設された。

居住支援の概要・経緯

- ・ 計画的に開発された戸建て住宅地で複合的な居住支援を行う団体として 2011 年に設立。
- ・ 地域の人々の居場所づくりが目的（つながりづくり、多世代交流、商店街の活性化）。
- ・ さくら茶屋（2009 年）、ほっとサロン（2010 年）、さくらカフェ（2013 年）を拠点として活動。平成 27 年春現在 15 事業を実施中。



NPO 法人さくら茶屋にししばが作成したパンフレットによる

活動や事業の特徴

- ・ 住宅の建設・入居開始からほぼ 45 年程度経過し高齢化が進む開発住宅地で、3 箇所の拠点を活用しながら居場所づくり、高齢者の生活支援、子育て世代支援等の多様な生活支援事業（2015 年 3 月現在で 15 の事業を実施）を行っている。
- ・ 地域の自治会、商店会とも連携がとれ始めている。
- ・ 地域の声の的確に把握しながら、スタッフが楽しんでやれることを大切にして事業が展開されている。



活動・事業継続のポイント

○現場の声、地域声を聞く

アンケート調査（活動当初）や地域の観察によって、地域の需要を的確に把握・確認しながら居場所、高齢者の生活支援、子供の居場所へと活動が展開してきている。

○地域へのこだわりがある

高齢化がすすむ開発住宅地で、自分たちのまちを住民自らの手でつくってほしいという視点で多様な支援活動が展開されている。

○新しい組織を自ら次々に生み出している

2011年に発足した団体であるが、地域の意向を的確に把握しながら目的の異なる3つの拠点と15の事業を運営するまでに急成長した。

○空き店舗や既存店舗の一部を活用している

3つの拠点のうち2つは商店街の空き店舗が活用された。またもう一つの拠点は、既存の店舗の一部を活用している。

さくら茶屋にししばの
あゆみ

| 年月 | さくら茶屋のあゆみ | 年月 | さくら茶屋のあゆみ |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 09/03 | 空き店舗利用の拠点づくりを検討 | 12/10 | 神奈川子ども子育て支援奨励賞受賞 |
| /04 | 横浜市の「まち普請」に応募 | | いきいき活動・就労体験受け入れ |
| /06 | 地域要求把握のアンケート実施 | | ハロウィン街歩き企画を実施 |
| /11 | 広報誌の創刊・地域へ各戸配布開始 | /12 | 眉毛カット・メイク開始 |
| | ネット活動・ブログを開設 | 13/03 | NPO賛助会員拡大・大募集 |
| 10/04 | まち普請に合格、500万円をゲット！ | /04 | 足もみケア開始 |
| /05 | 「さくら茶屋」がオープン | /05 | 第2店舗開設に向けた検討開始 |
| /06 | 趣味の教室や西柴夜話を開始 | | 第6回横浜・人・まち・デザイン賞 |
| /10 | 子育てママが子供向け企画を開催 | | 「地域まちづくり部門」表彰 |
| 11/03 | 「東日本大震災」救援募金運動開始 | | ポールウォーキング遠出版の開始 |
| /05 | 買物サポート事業&生活支援を開始 | /06 | 買い物事業にWAM助成採用 |
| /06 | 「ほっとサロン」活動開始 | /09 | 第2店舗「さくらカフェ」オープン |
| | 介護者の集いの定例開催を開始 | /10 | 金沢区と「つながりステーション」 |
| | 認知症予防学習会（5回シリーズ） | | の協働事業を協定化&活動開始 |
| /08 | 整体・ハンドトリートメント開始 | /12 | 西柴ショッピングセンター宣伝担当 |
| /09 | 夏季休業・大型夏休み（2週間） | 14/02 | ホームページを立ち上げる |
| | NPO設立総会（会員62名で発足） | /03 | バザー活動を実施 |
| | 折り紙教室開講 | /04 | 消費税増税・ランチの値上げ実施 |
| | 濱ともカード・ハマハグカード協賛 | /05 | 顔のエステを開始 |
| /10 | 認知症学習会・ぼたんの会発足 | | おしゃべりカフェを開始 |
| /11 | 子供絵画展開催 | /06 | 読売新聞・JCN・TVK取材 |
| /12 | NPO認証される | /07 | 第4期NPO総会（会員85名） |
| 12/01 | ポールウォーキング普及活動開始 | /08 | 七夕飾りを西柴商店街共同で実施 |
| | | | 茶屋をクール休憩所として利用 |



さくら茶屋の人気商品



東京湾のあなご使用



特製スモークチーズ



季節感溢れるお弁当



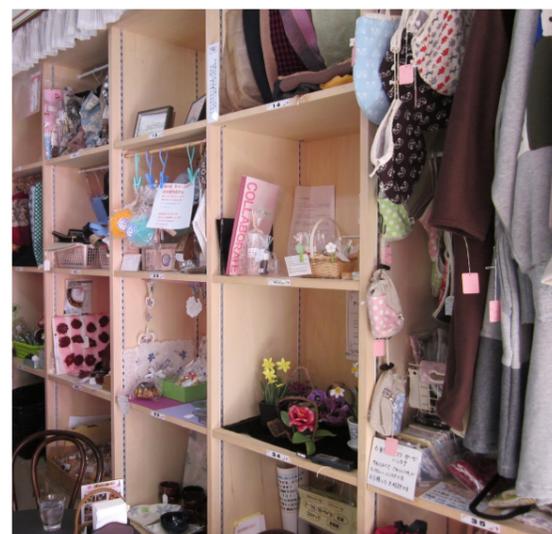
手づくりケーキ



ハワイ料理のロコモコ丼



100円お惣菜



レンタルボックス

NPO 法人さくら茶屋にししばが作成したパンフレットによる